

頼惟清旧

文学者、詩人、儒教者の頼惟清の旧邸宅は、江戸時代（1603～1867）の伝統的な建築とデザインの良い例です。家は 1775 年頃に建てられ、3 つの井戸があり、3 つの井戸にはそれぞれ独自の目的がありました。1 つは家事に、もう 1 つは家族が経営する染色事業に、最後は書道に使用されました。

頼惟清は竹原で最も有名な史人の一人であり、19 世紀の日本史の本である日本外史の著者である頼山陽（1781～1832）の祖父でした。

頼山陽は、広島で育ち、竹原の文化に影響を受けた儒教の重要な学者、歴史家、芸術家、詩人でした。彼の著作には、徳川幕府（1603–1867）の指導者によって読まれた日本の歴史に関する主要な作品である日本外史が含まれています。頼山陽は、日本全国の志を同じくする学者や思想家と接触し、日本史上の重要な人物となりました。

生誕 200 周年を記念して、竹原に頼山陽の銅像が建てられました。
頼家の発祥の地であるこの建築は、江戸時代の保存品が多く、広島県史跡に指定されています。